

青年部事業所の各種施策・政策活用事例

商 工 会 名	福井県坂井市商工会		青年部員名	小林 輝之
企 業 名	株式会社長田工業所		代表者名	小林 輝之
企 業 概 要	業 種	金属製品製造業	設 立 年	1991年5月
			従業員数	10人
補助事業名	ものづくり・商業・サービス革新補助金		テーマ区分(選択) 新商品開発・設備投資・広報・新規開拓・その他()	
【施策・政策を活用した経緯】 ※企業の経営状況、問題・課題等を含め記入 9割以上が下請けの受け身体勢での仕事を中心で利益の上げにくい体質であり、売上高は微増しているが利益率が年々減少していた。自社が企業として成長していく為には、どこにも真似ができないこと、自社の強みを活かした自社の技術・ノウハウを一般個人市場にも広げ、主体的に利益を生み出せる体質へ変わる必要があった。				
【主な活用内容、方法等】 これまで工場の設備保全工事などを請け負っており、自ら商品を創り出し発信する事はほとんど無かったが、現業の金属加工(特に鉄製階段)の加工下請けから製造ノウハウを活かしたオリジナル自社製品メーカーへの新業態の確立を図るため、ものづくり・商業・サービス革新補助金を活用し、工業大学、公的機関、専門化とも連携し、デザイン性に富んだ自社オリジナル設計による新商品「組立式オリジナル階段」の開発を行った。			写 真(3枚程度)	
【活用の成果】 ※なるべく具体的な数値等(売上、来店数、指標等)を含め記入 通常、製品の製造にあたって下請けまで仕事が回ってくるには複数社を経由するため、商品単価に上乘せがされているが、自社製品化により、この中間マージンカットができるようになり、消費者の方を含めた販売先へより価格訴求が可能となった。(通常の製品より2割以上価格を抑えることが可能)				
【活用後の声】 ものづくり補助金の活用から様々な補助金への興味を持った。他にも持続化補助金や県の補助金を活用しながら弊社の価値を高める事業を展開している。下請け中心で閉鎖的な鉄工所であったが、一般市民への認知度も高まりつつあり、昨年は新卒採用もすることができた。今後も商工会等の支援を受けながら積極的に事業展開していく。				